

アダムの物語 (4/5) : 地上における人生

説明： アダムと子供たち、人類最古の殺人、そして彼の死について。

より アイシャ ステイシー (© 2012 IslamReligion.com)

掲載日時 13 Feb 2012 - 編集日時 13 Feb 2012

カテゴリ： [記事](#) > [イスラームの信条](#) > [諸預言者の物語](#)

アダムとイヴは樂園を離れ、地上での人生を開始しました。神は多くの方法によって、彼らに準備をさせていました。かれはサタンの策謀と囁きかけに対する奮闘の努力を経験させていましたし、またアダムにあらゆるものの名を教え、それらの固有性と有益性について指示していました。アダムは地上における代理人、そして預言者という立場になりました。



神の最初の預言者であるアダムは、神への崇拝、そしてかれによる赦しを得る方法を妻と子供たちに教える責任を負っていました。アダムは神の法を確立させ、家族を扶養すると同時に、大地の開墾とその管理法を学びました。彼の任務は存続、開拓、建築、植民に基づいたものでした。彼は神の指示通りに生き、大地の世話と管理をし、向上の努力を欠かさないう子孫の養育に励んだのです。

アダムの四人の子供

アダムとイヴが最初に授かった子供たちは四人で、まずカインとその妹が双子として生まれ、次に生まれたアベルとその妹も双子でした。アダムの家族は平穏と調和と共に暮らし、カインは土地を耕し、アベルは家畜の世話をしていました。時は流れ、アダムの息子たちは結婚をする年齢になりました。預言者ムハンマドの教友たち（イブン アッバース、イブン マスウードなど）による伝承によると、アダムの息子たちの結婚相手は兄弟の双子の妹であったことが分かっています。それゆえ、地球を繁栄させるための神の計画とは、アダムの二人の息子による兄弟の双子の妹との結婚であったことを私たちは知ります。

どうやら容姿の美しさは、人類の始まりから男女を惹き付ける役割を果たしていたです。カインは自分の配偶者に満足出来ず、弟を嫉妬し、父の命令に背くようになりました。彼はそうすることによって神に背いたのです。このように、神は善と悪の性向をもって人類を創造しましたが、自らの生得の衝動を抑えて努力することは、私たちにとっての神による試練の一部なのです。

神はカインとアベルに犠牲を捧げるよう命じました。これによって神はより良い犠牲を捧げた方に恩寵を与えることにしたのです。カインは劣悪な作物を捧げ、アベルは最良の家畜を捧げました。そして神がアベルの犠牲を認めたためにカインは激昂し、弟を殺害すると脅迫しました。

“（ムハンマドよ、）アダムの二人の息子の物語の真実を民に語れ。彼ら二人が犠牲を捧げた時、1人は受け入れられたが、もう一人は受け入れられな

かった。言った。「私はきとお前を殺してやる。」”(クルアーン5章27節)

アベルは兄に対し、神を畏れ、神に仕える者の善行は受け入れられ、傲慢かつ利己的で、神に反抗的な者の善行は拒否されることを忠告しました。

“かれ(アベル)は(カインに答えて)言った。「神は、ただ主を畏れる者だけ、受け入れられる。たとえあなたが、私を殺すためにその手を伸ばしても、私はあなたを殺すため、手を伸ばしはしない。私は万有の主アッラーを畏れる。」”(クルアーン5章27-28節)

最古の殺人

“しかし彼の(利己的な)心は、その弟の殺害を望ましいこととし、遂に彼を殺して、失敗者の類となった。”(クルアーン5章30節)

預言者ムハンマドにまつわる伝承によると、カインは激情して鉄の塊で弟の頭を殴ったとされています。また別の伝承では、カインはアベルの睡眠中に彼の頭を殴打したとされています。

“そのとき神は、1羽の大カラスを遣わして地を掘らせ、その弟の死体を、いかに覆うべきかをかれに示された。かれ(カイン)は言った。「ああ情けない。弟の死体を葬るのに、私はこのカラス程のことさえ出来ないのか。」こうしてかれは後悔する者の類となった。”(クルアーン5章31節)

アダムは悲しみに打ちひしがれました。彼は長男と次男を二人同時に失くしたのです。一人は殺害され、もう一人は人類最大の敵であるサタンの側に付いてしまいました。アダムは忍耐強く息子のために祈り続けると同時に、大地の管理をし続けました。また彼は多くの子供たち、孫たちに神のことを教えました。彼は彼らに自らとサタンとの遭遇の談話をし、サタンの謀略と企みに気をつけるよう促しました。長い年月が流れ、アダムは年老いて、彼の子供たちは各地へと拡散していきました。

アダムの死

人類は皆、アダムの子です。預言者ムハンマドにまつわる一つの伝承では、アダムは神によって彼の子孫の様子を示されたということが伝えられています。アダムは預言者ダビデの美しい眼光を見て感嘆し、神にこう言いました。「神よ、私の生命の40年分を彼にお授けください。」神はアダムの申し出を受け入れ、それは記録の上に封緘されたといえます。

アダムの寿命は1000年のはずでしたが、960年目に死の天使がアダムの元を訪れました。アダムは驚いて言ったそうです。「しかし、私にはまだ40年残っているはずですよ。」死の天使は彼による預言者ダビデへの40年の贈呈について思い起こさせましたが、アダムは否定しました。長い年月を経て預言者ムハンマドはこう言っています。

「アダムが否定したため、アダムの子も否定し、アダムが忘れたため、アダムの子も忘れたのです。アダムが過ちを犯したことから、その子も過ちを犯すのです。」(アッ=ティルミズィー)

アラビア語で人類にあたる言葉はインサーンですが、それは忘却を意味する言葉、ニスヤーンという語源から来ています。これは人間性の一部であり、私たちは何かを忘れるとそ

のことを否定し、拒否するものです。アダムは（嘘を付いたのではなく、）忘却したのですが、神は彼を赦しました。そしてアダムは神の意思に服し、死んだのです。そして天使たちが降下し、預言者アダムの遺体を奇数回、洗淨しました。彼らは塚穴を掘り、人類の父であるアダムの遺体を埋葬しました。

アダムの後継

アダムは死ぬ前に、彼の子供たちに対し、神は決して彼らを見放しはせず、導きをなしにさまよわせることをしないことを告げました。彼は子供たちに対して、神は他の預言者たちを遣わすが、彼らは皆同じこと、つまり唯一なる真実の神への崇拝への呼びかけをするであろうということを告げていました。アダムは彼の後継者として、息子のセツを選びました。

この記事のウェブアドレス：

<http://www.islamreligion.com/jp/articles/1197>

Copyright © 2006-2011 www.IslamReligion.com. All rights reserved.